

2007年11月10日(土)

調査地：京都市下京区西七条東御前田町、西七条赤社町

調査期間：2007年8月21日から継続中

調査面積：1区 約660㎡ 2区 約815㎡ 計約1,475㎡

調査主体：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 (http://www.kyoto-arc.or.jp/)

1 はじめに

この調査は国道9号(五条通)拡幅事業に伴う第3次調査です。調査地は、平安京右京六条二坊三町および六町にあたります。平安京では大路や小路によって区画された単位を「町」と呼ぶ宅地があり、それをさらに細分する「しぎょうはちもんせい四行八門制」があり、こみち小径が設けられていました。

2 遺構 今回の調査ではおもに平安時代前期の遺構を見つけることができました。

1区(六町)

掘立柱建物1 東西二間、南北二間以上の南北棟の掘立柱建物で、柱間は2.4m(8尺)です。

溝67と通路A 溝67は幅0.4~0.6m、深さ約0.2mで、第2次調査2区で見つけた溝44と並行しています。両溝の中心間の距離は約3.1mあり、この間が南北方向の小径と見られます。

東西溝9・39と通路B 溝幅はともに1.0~1.5m、深さ約0.3mで並行しています。溝の中心間の距離は約3.5mあり、この間が東西方向の小径とみられます。

2区(三町)

掘立柱建物2~4 調査区内で柱穴を多数検出しており、西側では南北方向の建物2・3が復原できます。共に東西二間、南北三間以上の南北棟の建物です。また調査区の北東部では建物4が見つかりました。南北1間、東西2間の東西棟の建物と考えられます。

建物5 調査区の南部では、直径約1.2m範囲に石が詰められた柱穴が東西に6基、その北側にやや小ぶりの柱穴が6基並んで見つかりました。それぞれの柱間は2.7m(9尺)でやや規模の大きな建物の北庇部分と考えられます。

溝58・60と通路C 溝幅はともに1.0~1.5m、深さ約0.2mで並行しています。溝中心間の距離は約3.3mで、この間が東西方向の小径とみられます。

埋納遺構 土坑68には緑釉陶器(唾壺)・土師器(甕)を、土坑74には須恵器(壺・甕)を、柱穴124には土師器杯・壺を、土坑128には須恵器甕、土師器杯などを納めています。

落込み56 調査区の東南に広がる東西36m以上、南北14m以上の南側に傾斜する湿地状の遺構で、平安時代前期に埋戻されます。下層は北東から南西方向に流れる古墳時代の流路です。

3 まとめ

平安京右京六条二坊三町と六町内の平安時代前期(9世紀後半)の宅地の様子が明らかになりました。

いずれの宅地内も、当初、広い敷地に建物などが配置されていました。建物の近くには埋納遺構があり、建物の安全などを祈願したまじない跡と考えられます。やがて、町内に小径が設けられ、敷地が細分されていったことがうかがえます。

今回見つけた通路A・B・Cは「延喜式」に記載されている一町内に通ずる「小径」と考えられます。小径Aは六町を東西に二分する位置に、東西小径B・Cは各町を南北に四分する位置にあたります。

*小径：『延喜式』の「左京職 京程」に「凡町内開小徑者・・・(中略)・・・、自餘町内一廣一丈五尺」(4.5m)とあります。

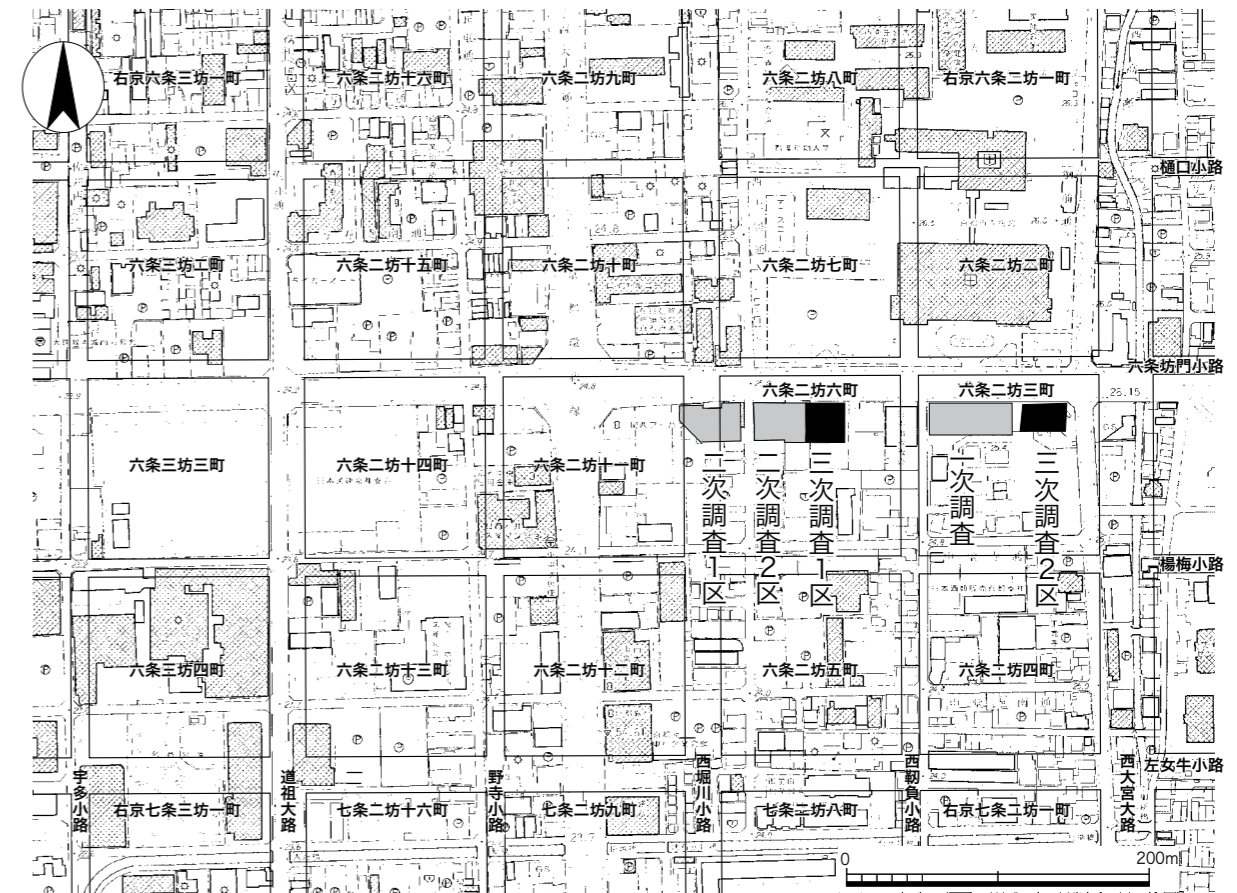


図1 調査位置図(1:5,000)

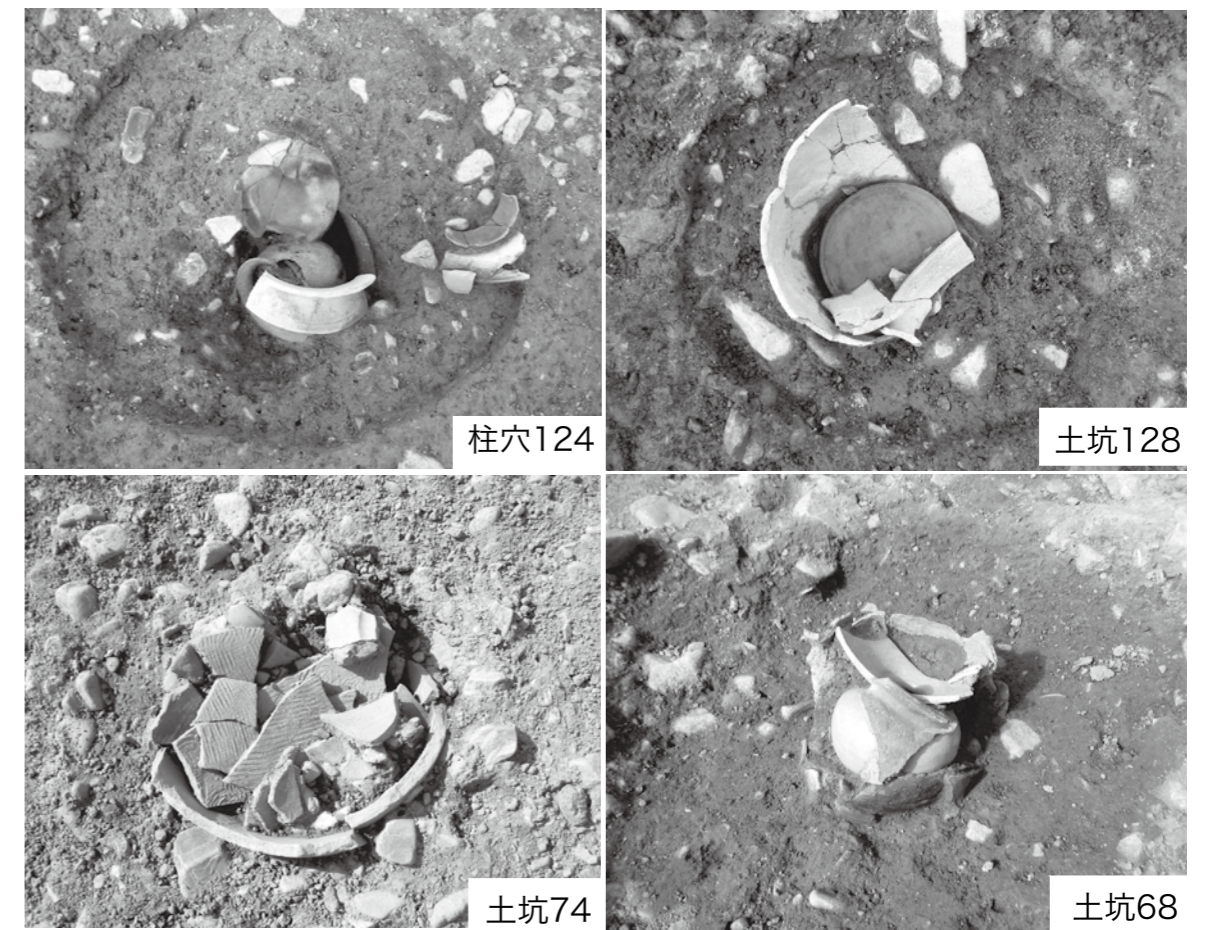
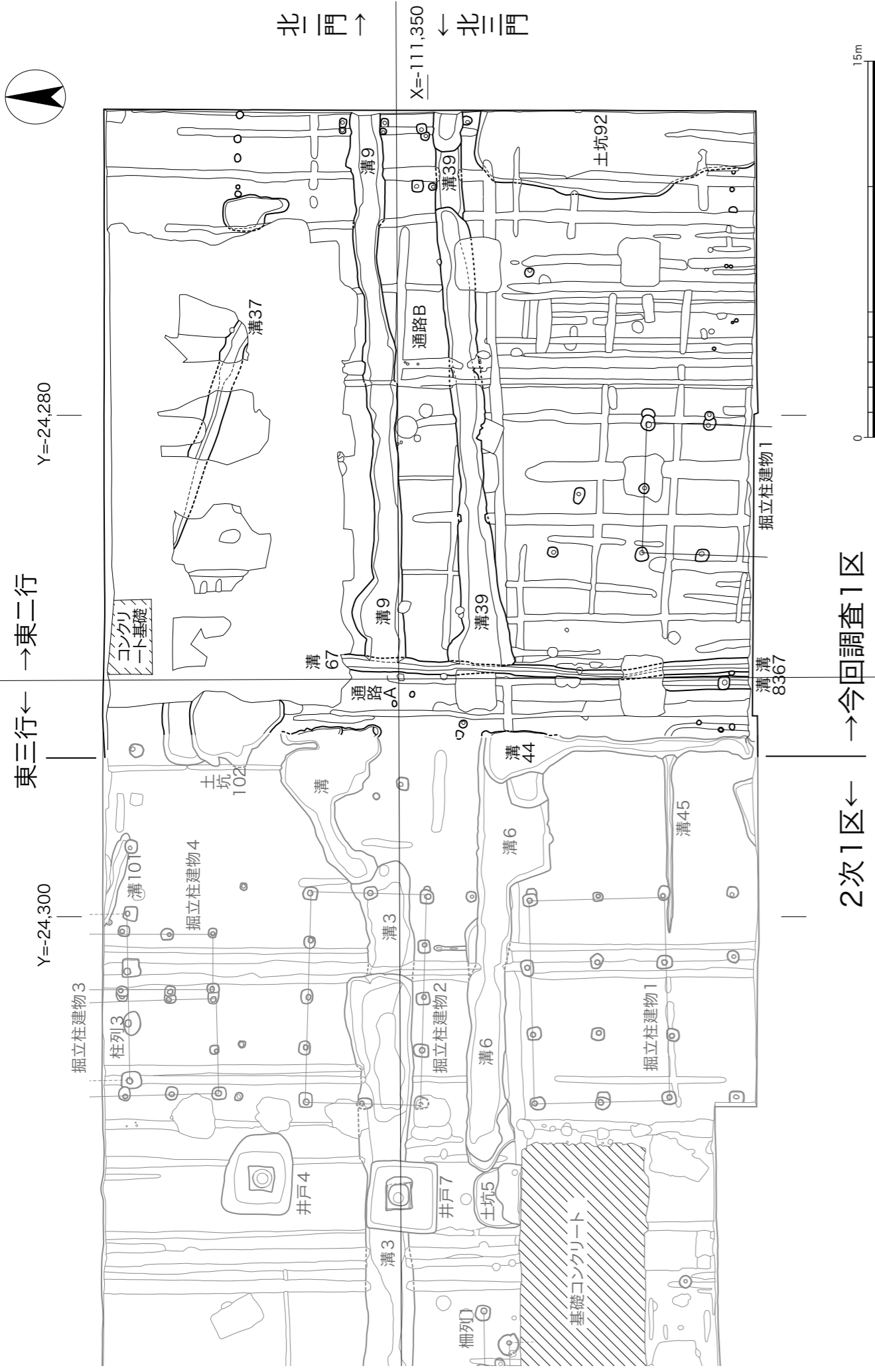


図2 埋納遺構(まじない跡)

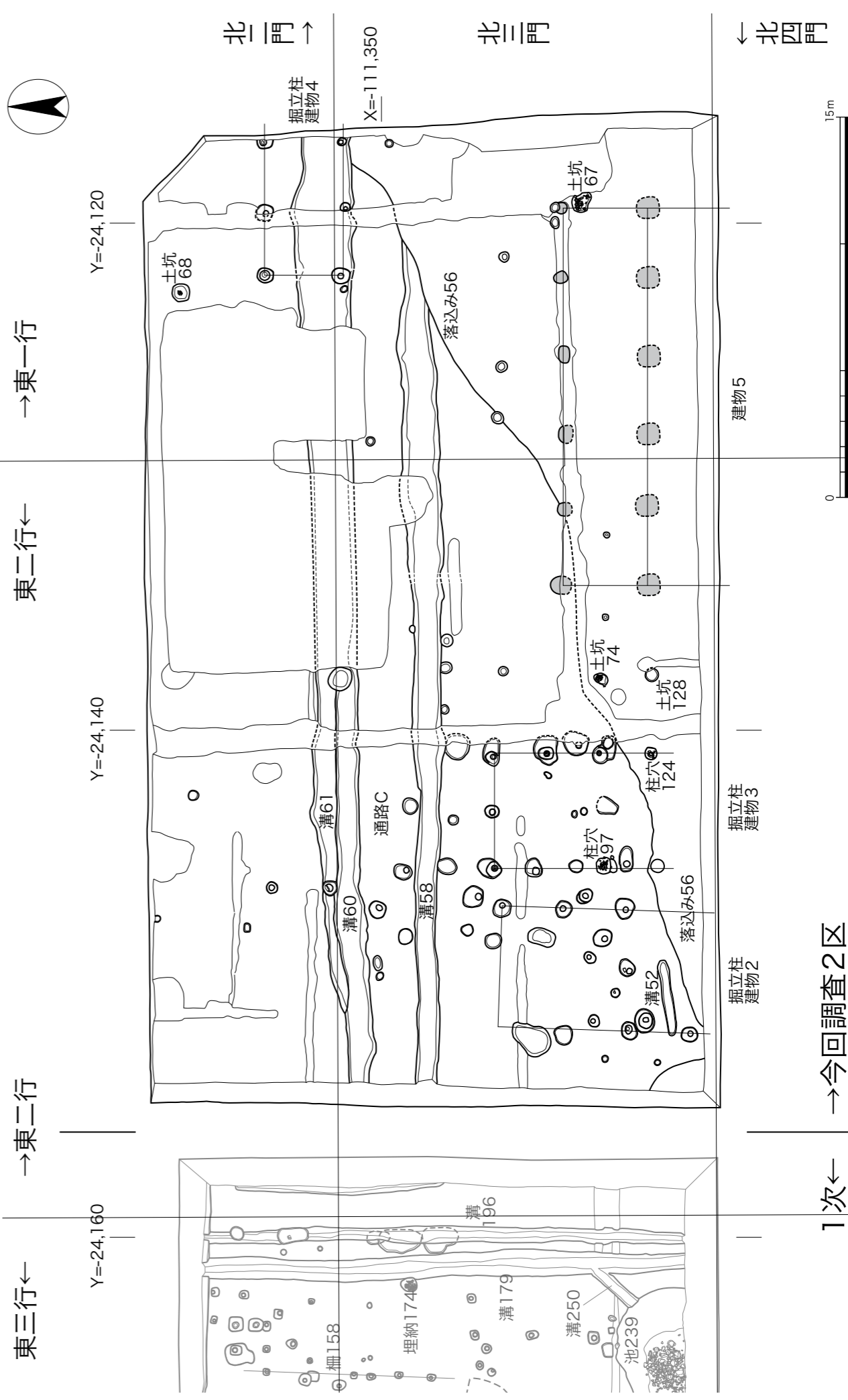
平安京右京六条二坊六町



2次1区 ← → 今回調査1区



平安京右京六条二坊三町



1次 ← → 今回調査2区

